

## インドネシア経済の現状と今後 —ジョコ政権発足後1年を迎え—

藤江 秀樹

### 目 次

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. はじめに      | 5. 消費市場      |
| 2. インドネシアの概要 | 6. ビジネスの課題   |
| 3. 経済        | 7. ジョコ政権の方向性 |
| 4. 日系企業進出状況  | 8. 終わりに      |

### 1. はじめに

2010年9月から15年3月までジャカルタで主に日系企業の進出支援を担当したが、その4年半は、まさに日系企業による「第三次進出ブーム」に沸いた時期だった。インドネシアに注目が集まった背景には、ASEAN最大の市場、安定した政治・経済・社会情勢があった。JETROジャカルタ事務所の来訪者は、10年は年間1,000人程だったが、11年には3,000人、12年以降は4,500人と急増しており、相談の内容は巨大市場の将来性を指すものが9割を占めている。業種別には、自動車・二輪車関連が多かったが、近年、製造業から非製造業に広がりを見せている。

本日は、主に日系企業の進出を支援してきた経験から、投資環境という側面を中心にインドネシア経済についてお話ししたい。

### 2. インドネシアの概要

インドネシアは2億4千万人（世界第4位）の人口を抱える、平均年齢28～29歳の若い国である。名目GDPは8,865億ドル（14年世界第16位）で、ASEAN唯一のG20メンバー国である。一人当たりGDPは、耐久消費財の消費爆発が起これと言われる3,000ドルのラインを10年に突破し、14年時点で3,531ドルに到達している。日本で言うと1970年代の水準である。人口、面積、名目



藤江 秀樹（ふじえ ひでき）

日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部アジア大洋州課 課長代理。2010年9月から15年3月までジャカルタ事務所勤務。15年4月から現職。海外調査部アジア大洋州課でインドネシアのマクロ経済・市場・制度調査を担当。編著に「インドネシア経済基礎知識」（ジェトロ、14年）がある。

（本稿は2015年11月10日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である。）